

愛知淑徳大准教授が講演

栄でサポーターミーティング

交通事故死者数が十五年連続で全国ワーストな状況



を改善するキャンペーン「AICHI 脱ワースト」に参加するサポーター企業による第二回サポーターミーティングが名古屋・栄の中日パレスで開催された。愛知淑徳大の国分三輝准教授「三真」が「高齢歩

行者の実態と歩行者の守りかた」をテーマに講演した。

県内を拠点にする企業三



十九社の担当者四十七人が参加。国分教授は、昨年の県内の交通事故死者数は六十五歳以上が全体の55%で、そのうち54%が歩行者中、さらにその85%が横断中だったことを説明。「高齢歩行者を守ることが脱ワーストにつながる」と話した。

「信号機のない横断歩道では、歩行者が渡ろうとしていても九割以上の車が停止しないことや、歩行者をはねたら、たとえ歩行者が信号無視をしてもドライバーは過失を免れられないことを紹介。「交通ルールを守らない行動が習慣化する『運転習慣病』で事故が起きる。ドライバーは悪習慣に気付き、運転を変えざる努力が必要」とも話した。

(小沢慧一)